

令和2年度事業報告

食肉生産技術研究組合（以下「研究組合」という。）は、平成4年に設立され、主として（独）農畜産業振興機構の助成金により、食肉処理等に関する機械・施設の研究開発を行い、食肉処理施設等の近代化に寄与してきた。

（独）農畜産業振興機構の研究組合への助成が平成22年度で中止された以降は、国、団体が公募する研究開発事業に応募し、研究開発を行ってきた。

令和2年度も引き続き、国、団体等の公募事業に応募し、研究開発を推進するとともに、研究開発された成果について普及に努めた。

1. 研究開発事業の実施

国及び団体が公募する研究開発事業に応募し、次のとおり研究開発を推進した。

（1）JRA畜産振興事業

「マイクロ波食肉製品異物検出装置研究開発事業」（令和2～3年度事業）

食肉製品の原料及び食肉製品に付着又は埋没している金属片、獣毛等の異物を検出するため、マイクロ波を活用した食肉製品異物検出装置の研究開発を行った。

（2）公益財団法人伊藤記念財団委託事業（平成30年度～継続事業）

昨年度に引き続き、牛の背割り作業の自動化システムに関する研究開発を行った。

2. 研究成果の普及

研究成果の普及を図るため、令和3年2月26日に大手町KDDIホールで食肉処理施設や関係者81名の参加を得てZOOM方式で研究成果発表会を開催するとともに、幕張メッセで令和3年3月9～12日に開催された食肉産業展に出展し、研究成果の普及に努めた。

また、（公財）日本食肉生産技術開発センターの機関誌「JAMTI BULLETIN」やホームページにより研究成果の普及に努めた。

3. システム研究会の実施

研究組合の組合員間の技術交流を通じて、研究開発の一層の推進を図るため、令和2年10月9日に御茶ノ水トライエッジカンファレンスでZOOM方式により食肉生

産技術システム研究会を開催した（参加者35名）。

4 理事会・総会の開催

(1) 理事会

ア 第1回理事会

令和2年7月3日

議題 総会提出議案について

- ① 令和元年度事業報告及び決算報告書に関する件
- ② 令和2年度事業計画及び収支予算の変更に関する件
- ③ 役員を選任に関する件

イ 第2回理事会

令和2年7月3日

議題

- ① 専務理事の選任に関する件

ウ 第3回理事会

令和3年3月23日

議題 総会提出議案について

- ① 令和3年度事業計画及び収支予算に関する件
- ② 令和3年度賦課金に関する件

5 総会

ア 通常総会

令和2年7月3日

議題

- ① 令和元年度事業報告及び決算報告書に関する件
- ② 令和2年度事業計画及び収支予算の変更に関する件
- ③ 役員を選任に関する件

イ 臨時総会

令和3年3月23日

議題

- ① 令和3年度事業計画及び収支予算に関する件
- ② 令和3年度賦課金に関する件

5 組合員及び理事の異動

(1) 組合員の異動

ワタナベフーマック株式会社が脱会した。

(2) 理事の異動

令和2年7月3日の総会において、菊川清志理事、関孝雄理事、細見隆夫理事の辞任に伴い、加藤洋株式会社北海道畜産公社専務理事、脇田暁夫日本ハム株式会社食肉事業本部国内食肉生産事業部長、木下良智公益財団法人日本食肉生産技術開発センター専務理事が理事に選任された。

令和2年7月3日の理事会において、木下良智理事が専務理事に選任された。